外来通院している後期高齢２型糖尿病患者の看護師へのニーズを知る

大網白里市立国保大網病院
外来　◎佐藤亜絹子　伊東昌子　飯野千絵
仮屋山朱美　田邉清美

〈研究背景〉

糖尿病は生活習慣病の中でも治療法が食事療法・運動療法を中心とする患者の自己管理に多くを依存しておりセルフケアが重要である。糖尿病外来に通院する患者は高齢者が多く、中でも後期高齢者の割合が直近 3 ヶ月で 33%であった。後期高齢糖尿病患者の中にはコーヒーは砂糖入りで飲む、果物の多量摂取など長年の食習慣に加え、多量の残薬や抗血栓薬を糖尿病の薬と思い違いをしていた患者もおり、療養生活が自己流になっている。

先行研究によると、「後期高齢者は前期高齢者と比較して配偶者がいないものが優位に多く外来受診時などに医療者の指導や協力などソーシャルサポートを得ることが自己管理のための重要な機会となっている」と述べている。外来看護師が通院している患者と関わる時間は短く、どのような支援を必要としているのか情報を得ることに困難を抱いている。

日本老年医学会の認知・生活機能質問票（DASC-8）を用いて高齢者の自立度を調べるとともに外来看護師へのニーズを関連付けて考え後期高齢２型糖尿病患者支援に役立てたい。

〈方法〉

糖尿病専門医外来に通院する 75 歳以上の後期高齢２型糖尿病患者約 30 名に独自に作成した質問紙と認知・生活機能質問票（DASC-8）による対面調査を行い結果分析する。

1. 質問紙原案作成
2. 対象者の抽出　糖尿病専門医外来患者：後期高齢 75 歳以上の２型糖尿病　約 30 名
3. 外来受診の際に本研究の説明を行い同意を得られた患者に個室で聞き取り調査を実施する
4. 調査結果の集計・分析を行う

＜倫理的配慮＞

調査対象者には、回答により不利益を被ることはないこと、同意を撤回したい場合はいつでもできることを、口頭と書面をもって同意を得る。同意を得て聴取した質問紙データは、書 面・USB で保管し院内から持ち出さず、研究終了後速やかに破棄を行う。

匿名性を保持しプライバシーを守る。知り得た情報やデータは本研究以外の目的では利用しない。